

石川県生協連だより

第86号

石川県生活協同組合連合会
 〒920-0362 金沢市古府2-189
 コープいしかわ古府センター2F
 TEL076-259-5962 FAX076-259-5963
 http://ishikenren.jp

発行日/2016年5月25日
 発行責任者/横山 和男



防災学習交流会を開催

●日時 2016年2月22日(月)
 ●会場 石川県地場産業振興センター
 新館2階 第10研修室

今年度は東日本大震災から5年目の節目の防災学習交流会として、群馬大学大学院片田敏孝教授をお招きし「東日本大震災の教訓を活かす」と題して講演いただきました。また県内の活動報告は能登町立小中学校の大句わか子校長より「学校と地域が一体となって取り組む津波防災活動」、加賀市三木地区会館の竹本利夫館長より「三木地区まちづくり推進協議会での取り組み」の二つ。その後、講演・活動報告をふまえて交流しました。

当日は自治体(県と16市町)22名、団体(社会福祉協議会、他)6名、生協関係32名の計60名が参加。

片田先生の話は、「釜石の奇跡」と称賛された避難3原則、①想定にとらわれるな②ベストをつくせ、最善を尽くせ③率先避難者になれを単なる知識ではなく生きる姿勢として、ひとり一人丁寧に正面から向き合ってお話をしてきたことがよくわかり、世代をこえて伝えていくことの大切さ、そしてその難しさについて理解を深めました。

大句校長先生からは、片田先生に学び小中学校と地域が一体となった防災活動を、竹本館長からは、加賀市の三木地域会館を中心とした、町の壮年団なども含めた横のつながりと持続的な防災活動についてお話しいただき、石川県内で行われている活動について、より深く学ぶことができました。

講演・報告が盛り沢山となり、交流時間を15分に短縮せざるを得ない状況に。せっかく県内各地より、いろいろな立場の方が集まっていたのに、交流に関しては残念な結果となりました。

アンケートでは、講演・報告とともに「とてもよかった」の声が多く聞かれたことや、自治体参加者からは「毎年継続して開催してほしい」との声もいただきました。

災害は発生するもの。防災(減災)活動は、いつときの活動ではなく、親から子へ子から孫へそれぞれが命を大事にする「津波てんでんこ」の意味をみんなが伝えていくことの大切さを学ぶことができました。

(コープいしかわ 徳山 淳志)

平成27年度 市民協働型安全・安心製品表示 普及啓発事業

大人の自由研究
見る・知る・探る 家庭用品の製品表示



今年度、金沢市の委託を受けて石川県生協連が行った事業テーマは、家庭用品の製品表示。公募の市民が市内の販売店舗を訪問し家庭用品の製品表示を見ることにより、消費者にとってよりわかりやすく商品の選択に役立つ「表示」について考える体験型の消費者教育でした。

昨春秋、消費生活に関心を持つ24名の受講生は「家庭用品品質表

示法」「消費生活用製品安全法」等について研修を受け、寒波がやってきた今年1月中旬から約2週間、市内の店舗を訪問しました。受講生の研修にご協力いただいたのはショッピングモール、ホームセンター、電器店、ドラッグストアなどの80店舗。各店舗で製品表示がどのように表示されているかを見て回ると、消費者にとって見やすくわかりやすく表示されている店舗がある一方、衣料品など商品が包装されているため購入時には表示が見えないとか、数多く表示されているマークの意味がよくわからない等、折角の商品情報が生かされていない状況があることに気づきました。このように受講生が店舗で感じた様々なことを事業者者に直接伝えるため今年2月、事業者にも参加いただき報告交流会を開催しました。会議では事業者の表示についての取り組みも聞くことができ、双方にとってより良い表示の仕方について考える貴重な機会となりました。

(生協連 高木 晴美)

消費者支援ネットワークの活動

「シニア世代の安全安心インターネット術」を開催しました。

●日時 2016年2月19日(金)・23日(火)
●会場 石川県女性センター研修室



この事業は平成27年度金沢市の委託事業「金沢市消費者教育セミナー」として、スマートフォンやタブレットを使用している市内のおおむね60歳以上の方を対象に、23名が参加し開催しました。前半は金沢市近江町消費生活センター相談員の広瀬裕子さん(19



日)と村本留美さん(23日)からネット被害について説明していただき、後半は長土塀公民館パソコンサークル講師の安野正紀さんから実際にタブレットを使って、セキュリティの設定やワンクリック詐欺を模擬体験し、「何かおかしいと思ったら1人で抱え込まずに消費生活センターや周りの人に相談しましょう」と締めくくりました。

アンケートには「色々な実例をあげてお話しいただけてわかりやすかった。」「賢い高齢者となるためのよりよいインターネット術を習得する大切さを学びました。」などの感想がありました。このセミナーをきっかけにトラブルを未然に防ぎ、インターネットを安全に利用していただけばと考えています。

(事務局 笹谷 悦子)

会員生協の活動

コープ北陸 強風被害りんごの支援



昨年10月、青森県ではいわゆる爆弾低気圧や台風による強風が吹き荒れ、コープ北陸の産直産地である津軽産直組合では順調に生育していたりんごが落果したり傷だらけになる被害に遭いました。

コープ北陸商品委員会では、被害に遭った産地を支援することを決め、「強風被害支援ふじりんご」を企画し、多くの組合員にご利用いただくことができました。



ご利用いただいた組合員からは「見た目は悪いが、とても美味しかった」「これからも安全・安心なりんごの生産をお願いします」など、生産者への激励やご好評の声が数多く寄せられました。

今回、産地支援の呼びかけに多くの組合員からご協力いただきましたのも、日頃からの生産者と組合員の交流や信頼関係があるからこそです。

今後も全国の産直産地との交流にいつそう取り組んでまいります。

(コープ北陸 企画総合グループ)



コープいしかわ 地域を元気にする「のともくくるスマイルプロジェクト」

地域を元気にすることを目的に、世界農業遺産の認定を受けている能登の里山・里海が育んだ地元の食材を活用した商品開発を行う「のともくくるスマイルプロジェクト」。本プロジェクトでは生産者、加工業者、販売者をはじめ、地元の高校生や組合員も参加し、地域ぐるみで商品開発を行っています。昨年度の輪島市・能登町・珠洲市に引き続き、今年度は七尾市と穴水町でプロジェクトが進行中です。

まずは、「家庭で食べる加工食品」の開発を行うための調査を行い、七尾市・穴水町それぞれで使用する食材を選定し開発チームを結成しました。事務局をコープいしかわが担い、県内資本のスーパーマーケットが各市町別プロジェクトチームの幹事となって、商品開発を推進しています。

七尾市では能登ふぐを使用し、炊き込みご飯の素と中島菜を使用した混ぜご飯の素を、穴水町では能登牡蠣を使用した牡蠣めしの素と牡蠣フライを開発す



る予定です。パッケージデザインは、全ての商品で地元高校生の協力を得たデザイン案をもとに、作成をすすめています。

これまでに2,000件を超える試食アンケートを行い、よりよい商品作りに励んでおります。商品が完成しましたら、ぜひ召し上がってみてください。

(コープいしかわ 理事長スタッフ 脇坂 喜文)

◆県生協連活動日誌◆

- | | | | | | | | |
|-----|-------|----------------------------|--------------------|----|-------|-----------------------------|-------------|
| 11月 | 4 | 第3回三役会 | 生協連事務所 | 2月 | 4 | シニア世代の安全安心インターネット術① | 県女性センター |
| | 4 | 中村勲県議会議長 表敬訪問 | | | 5 | 消費者教育研修「家庭科の教科書を学ぶ」 | 県消費生活支援センター |
| | 4 | 消費者力検定 | 金沢勤労者プラザ | | 8 | 石川県消費者大会実行委員会① | フレンドパーク |
| | 5 | 地方消費者グループフォーラム 実行委員会② | 福井AOSSA | | 12 | 消費生活相談員との意見交換会③ | 近江町交流プラザ |
| | 7 | 社会貢献事業および会員生協の交流企画 | 穴水町 | | 13～14 | 第20回適格消費者団体連絡協議会 | 埼玉 |
| | 10 | 関西地連管内 非常用通信訓練 | 労福協理事会 | | 15 | 県能登の一品認定審査会 | 県庁 |
| | 16 | 地方消費者グループフォーラム、板東長官との意見交換会 | フレンドパーク
福井AOSSA | | 16 | 企画運営委員会⑩ | 生協連事務所 |
| | 17 | 企画運営委員会⑧ | 生協連事務所 | | 16 | 県農業活性化協議会 | 県庁 |
| | 18 | 見る・知る・探る「家庭用品表示」セミナー① | 県女性センター | | 22 | 防災学習交流会 | 県地場産業振興センター |
| | 19 | 全岐阜生協連創立40周年 | 岐阜市 | | 23 | シニア世代の安全安心インターネット術② | 県女性センター |
| | 24 | 北陸労金、白山市長 表敬訪問 | | | 24 | 「家庭用品表示」意見交換会 | 県女性センター |
| | 25 | 石川県指導検査 | | | 24 | いしかわ環境パートナーシップ県民会議理事会 | 県民エコステーション |
| | 26 | 消費者支援ネットワークいしかわ(CSNI)専門部会② | 近江町交流プラザ | | 24 | 消費者団体と北陸農政局との意見交換会② | 広坂合同庁舎 |
| | 27 | コープいしかわ「消費者力アップミニ講座」 | 小松センター | | 26 | 労福協理事会 | フレンドパーク |
| | 30 | 労福協事業団体知事要請 | | | 26 | CSNI専門部会③ | 近江町交流プラザ |
| 12月 | 1 | 労福協事業団体金沢市長要請 | | | 29 | 金沢市災害時協力協定連絡会議 | 金沢市役所 |
| | 2 | 第4回理事会 | コープいしかわ古府センター | 3月 | 1 | 石川県消費者大会実行委員会② | フレンドパーク |
| | 2 | CSNI消費者部会③ | 県女性センター | | 2 | 第5回三役会 | 古府センター |
| | 3 | 関西地連運営委員会・県連協議会 | 大阪 | | 2 | CSNI消費者部会④ | 県女性センター |
| | 7 | 広報委員会 | 生協連事務所 | | 3 | 広報力進化セミナー | 古府センター |
| | 7 | 野々市市長 表敬訪問 | | | 3 | 消費者委員会委員と消費者団体ほか関係団体との意見交換会 | 霞が関 |
| | 9 | 県民生活課・危機対策課 打合せ | | | 4 | 消費生活相談員との意見交換会④ | 寺井地区公民館 |
| | 11 | 東海北陸県連協議会 | 氷見 | | 8 | 関西地連管内 非常用通信訓練④ | |
| | 14 | 津幡町長 表敬訪問 | | | 10 | 反核・平和おりづるの市民のつどい実行委員会 | 近江町交流プラザ |
| | 14 | 上期監事監査 | 生協連事務所 | | 15 | 企画運営委員会⑫ | 生協連事務所 |
| | 16 | 「家庭用品表示」セミナー② | 県女性センター | | 16 | 消費者のつどい | 県消費生活支援センター |
| | 17 | かほく市長 表敬訪問 | | | 19 | 子ども消費者教育出前講座 | 野々市市 |
| | 18 | 小松市長 表敬訪問 | | | 23 | 第46回石川県消費者大会 | 県地場産業振興センター |
| | 21 | 県農業活性化協議会 | 農業会館 | | | | |
| | 22 | 企画運営委員会⑨ | 生協連事務所 | | | | |
| | 24 | 石川県ユニセフ協会理事会 | | | | | |
| 1月 | 2 | 新年互礼会 | 知事、金沢市長 | | | | |
| | 5 | 年始挨拶JA石川県中央会会長訪問 | | | | | |
| | 5 | 労福協・連合新春のつどい | ホテル全日空金沢 | | | | |
| | 6 | 第4回三役会 | 生協連事務所 | | | | |
| | 6 | 年始挨拶回り | | | | | |
| | 7 | 年始挨拶回り | | | | | |
| | 12～13 | 全国政策討論集会 | 東京都センターホテル | | | | |
| | 14 | 「家庭用品表示」セミナー③ | 県女性センター | | | | |
| | 14～29 | 「家庭用品表示」店舗訪問 | | | | | |
| | 15 | 山田修路参議院議員 表敬訪問 | | | | | |
| | 15 | 広報委員会② | 生協連事務所 | | | | |
| | 19 | 企画運営委員会⑩ | 生協連事務所 | | | | |
| | 26 | 関西地連管内非常用通信訓練③ | | | | | |
| | 28 | 関西地連運営委員会・県連協議会 | 名古屋 | | | | |
| | 30 | 消費者支援ネットワークいしかわ第2回理事会 | フレンドパーク | | | | |
| 2月 | 1 | 県食の安全安心の確保に関する講演会 | 県庁 | | | | |
| | 2 | 消費生活相談員との意見交換会② | 中能登ラピア | | | | |
| | 3 | 石川県行政との懇談会 | 県庁 | | | | |
| | 3 | 第5回理事会 | 労済会館 | | | | |

生協連 行事案内

■石川県生協連 第51回通常総会

日時 2016年6月20日(月) 午後1時30分～3時30分
会場 石川県勤労者福祉文化会館 2Fホール

編集
後記

東日本大震災の復興が道半ばというのに、またしても熊本・大分を中心とした直下型地震が起きてしまいました。被害に遭われた方々に心からのお悔みとお見舞いを申し上げます。災害時協力協定の見直し、物資輸送のスキル、災害ボランティア対応、BCP計画など、多くのつらい体験や失敗を経験知にして防災や減災の取り組み精度を上げてきたのに、自然はいつもあざ笑うかのように想定外の災害を突き付けてきます。災害は一つ一つ異なること、過去の歴史に学ぶこと、記憶の風化に抗い常に謙虚に災害対策を講じることを肝に銘じて地域のネットワークを繕い直していきたいと思います。

(専務理事 青海万里子)